

(6) 桑折町のみどり

➤ 桑折町における“みどり”とその役割

桑折町には様々な緑があります。山地に広がる森林や阿武隈川、周辺部に広がる農地、段丘斜面林などは桑折町の骨格を形成する緑です。

大気浄化や二酸化炭素の吸収による地球温暖化防止、土砂災害や洪水等の防備、多様な生物の生息・生育空間、農作物や木材の生産の場、自然景観の形成や自然レクリエーションの提供など、多くの役割を有しています。

また、産ヶ沢川や伊達西根堰などの水辺も、町へ水を供給するという重要な役割をはじめ、生物の移動経路など緑を結ぶネットワークの役割をもっています。

一方、市街地の公園や広場、グラウンドなどのオープンスペースは、身近なレクリエーションの場となるほか、都市防災や街並み景観構成という役割も担っています。寺社林や屋敷林、防風林は、地域の歴史・文化に馴染む大切な緑です。

このほか市街地に残る農地や民家の庭木、生け垣、街路樹なども身近に季節を感じられるなどの役割があります。



【早田牧場跡地】

【緑の役割】

■環境を守ります

植物は光合成によって、二酸化炭素を吸収し酸素を供給します。また、大気中の硫黄酸化物や窒素酸化物などを除去し空気をきれいにします。また、都市のヒートアイランド現象の防止にも役立っています。

■生物の生息・生育の場となります

緑は、様々な生き物が生息・生育できる環境を提供しています。緑があることで、私たちはいろいろな生き物とふれあうことができます。

■災害から守ります

山の森林があることで、根が土砂を押さえ、土砂災害も起りにくくなります。雨水が山や農地に蓄えられることで、市街地や集落を洪水から守ります。また、半田おろしの強風から、町や農地を守ってくれる防風林もあります。公園などのオープンスペースは災害の際に避難場所としても役立ちます。

■自然の恵みを与えてくれます

米や野菜、桃などの果物、山菜など、おいしい食べ物を供給してくれます。また、建築や日常生活用品などの材料に使用する木材の供給場でもあります。

■良好な景観を形成します

山や河川、果樹園、田園の緑は、穏やかで美しい桑折町の景観を形成します。また、公園や寺社林、民家の庭など、緑は美しい景観を創出します。また、花を咲かせたり紅葉したり、季節感を演出し、私たちに癒してくれます。

■レクリエーションが楽しめます

市街地の公園や半田山自然公園など、自然散策やスポーツなど様々なレクリエーションの場を提供してくれます。

■コミュニティ形成にも寄与します

自然観察や花壇づくり、公園管理や緑化活動などは、まちを美しくするとともに、活動への参加を通じての地域のコミュニティ形成にも寄与します。

➤ まちを特徴づける緑

「桃の郷・桑折町」のキャッチフレーズのとおり、「ももの花」は桑折町を象徴する緑であり、まちの花にも指定されています。

また、万正寺の大カヤは、県の天然記念物に指定されており、根本から60cm上の幹回りが約7.5mもある巨幹で、カヤの巨樹としては日本で最大のものです。

「カヤ」は、まちの木に指定されています。

もう一つまちの木に指定されているのが「アカマツ」です。半田山にも多くみられ、松林の景観を構成しています。



【万正寺の大カヤ】



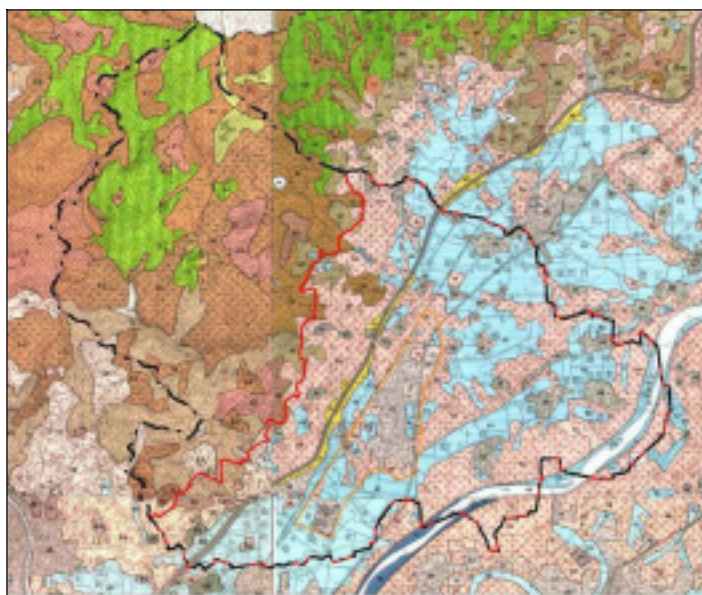
【桃の花】

➤ 桑折町の植生

桑折町の現況植生をみると、低地・台地では農地（水田、果樹園など）がほとんどを占めています。西部の山林をみると、ブナーミズナラ群落、カシミザクラコナラ群落、コナラ群落、アカマツ群落などの二次林、植林地で構成されています。森林面積（森林計画面積）は1,760ha、うち樹林地が1,735haとなっています。（2000年世界農林業センサス（林業編））

樹林地の構成をみると、天然林 1,071ha、人工林 664ha となっており、人工林率は38.3%となっています。天然林は、アカマツ・クロマツが半数、その他コナラなどの広葉樹となっており、人工林はほとんどがスギ、マツとなっています。

樹林地のうち、911ha が保安林として指定されています。



【現況植生図】

➤ **桑折町に生息する動植物**

半田山などの山地や阿武隈川などの河川では、豊かな自然環境のなかに様々な生き物が生息しています。

山地には、ニホンザル、ツキノワグマ、ニホンカモシカなどのほ乳類や様々な野鳥、オオムラサキやムカシトンボをはじめとする昆虫などもみられます。阿武隈川には、ナマズやコイなどの魚類をはじめ、昆虫や鳥類も多くみられます。産ヶ沢川の清流では、ゲンジボタルやカジカガエルなどが季節の風物詩となっています。

なお、近年、桑折町から国見町にかけての山林に生息するニホンザルの群れやツキノワグマによる農作物被害が報告されています。これは、山地での餌不足により遊休農地がサルの餌場となっていることや荒廃した森林などが要因としてあげられています。

➤ **公園等の緑**

桑折町の都市公園は、都市計画公園である石塚児童公園（街区公園：0.12ha）をはじめ、下表のようなものがあります。都市計画区域内における一人当たりの公園面積は、1.45 m²/人となっており、全国平均の9.1 m²/人、福島県の11.2 m²/人を大きく下回っています。（平成18年3月末現在）

なお、このほかにも「つつじヶ丘史跡公園」、広い芝生のある「ふれあい公園」、自然豊かな「産ヶ沢川ホテル自然公園」などがあります。

今後は、遊休農地等の活用も視野に入れながら、気軽に利用できる公園整備が課題となっています。

【桑折町の都市公園等】

公園種別	箇所数	面積	備考
街区公園	3	0.23ha	石塚児童公園 (0.12ha) 新和町児童公園 (0.08ha) つつじヶ丘東団地公園 (0.03ha)
近隣公園	1	1.00ha	陣屋の杜公園
緩衝緑地	1	0.38ha	北道合緑地
都市緑地	1	0.28ha	堰向工業団地緑地
合計	6	1.89ha	

➤ **町民の憩いの場「半田山自然公園」**

半田沼の周囲には、明治45年に約500本の桜が植えられ、湖水や半田山の緑に調和し、昔から桜や紅葉の名所として町民をはじめ多くの方々に親しまれてきました。桑折町では、生活環境保全林整備事業や広域林業構造改善事業により、修景樹木や在来樹種の植栽、散策遊歩道や休憩場、広場、キャンプ場、サイクリングロード、アクセス路としての林道等を整備してきました。それが「半田山自然公園」です。

➤ **歴史資源である「西山城跡」**

西山城跡のある高館山は、国の史跡にも指定され、緑豊かな環境の中で歴史・文化にふれることのできる場所となっています。

➤ 緑を結ぶネットワーク「こおりの小径」

桑折町では、平成15年度より、歴史、自然、産業などの豊かな地域資源の活用に応じたテーマを各地域に設けながら、現在の道路を利用した回遊ルート「こおりの小径」を設定して、町民や来町者が地域とふれあい、楽しみながら散策することで心と体の健康づくりと町の賑わいを創出する取り組みを進めています。

具体的な整備内容について地域や各種団体の皆さんとの意見交換を重ね、将来的に町民の皆さんとの協働により維持・運営できるよう検討し、これまでに先駆的事业として、上町ミニポケットパークの整備や地域づくり講演会、彫刻展（旧伊達郡役所など）の開催などを実施しています。



【こおりの小径 ルート】

ルート	概要
語らいの小径	蔵造りの残る街並みや史跡など、歴史の風に吹かれながら、各所に点在する彫刻や旧伊達郡役所、種徳美術館の芸術的な魅力に出会うルート
歴史の小径	伊達氏 17 代“独眼流政宗”のルーツ、戦国のロマンに出会う山辺の道を抜けるとこおり温泉“うぶかの郷”にたどりつく。“こおり”の歴史を学び悠久の歳月を堪能できるルート
果物の小径	皇室献上の桃をはじめ四季折々の果物の花と果実の味覚を楽しめる“美味しい果物の郷こおり”の果樹園風景に加えて、阿武隈川の雄大な流れと四季の移ろいととも表情を変える半田山、信達平野、吾妻連峰などの風景を楽しみながら散策できるルート
羽州街道、 いにしえ 古の小径	歴史街道、奥州街道と羽州街道の分岐点「追分」。旧街道沿線に残る風景に触れながら、古の人々の往来を思い浮かべタイムスリップの風にゆられて歩くルート
自然の小径	こおり温泉“うぶかの郷”から半田山自然公園までの豊かな自然環境のなかで、桜、新緑、紅葉、マイナスイオンいっぱいの赤松林、エメラルドに広がる半田沼面など、水と緑に癒されるルート

➤ 桑折町の河川や水路

水と緑の軸となる河川や水路は、桑折町の地形や歴史を語るうえで切り離すことのできない貴重な資源です。

主要な河川は、阿武隈川水系に属し、阿武隈川（約 3.0km）、産ヶ沢川（約 7.8km）、普蔵川（約 5.9km）、佐久間川（約 5.5km）という河川があります。これらの河川は地形的条件から流域面積は狭く、流路延長も比較的短い急勾配のものが多くあります。

また、今から約 400 年前に灌漑用水路として摺上川から取水して整備された、伊達西根上堰（約 20km）、西根下堰（約 29km）は桑折町の農業発展を考えるうえでかかすことのできない財産です。

今後は、これらの水資源の水質保全・改善に努めるとともに、人々に潤いを提供する機能を重視し、景観資源としても活用を図っていく必要があります。

➤ 緑に関する町民の活動

桑折町では、「陣屋の杜公園」や児童公園、JR 桑折駅前広場において、清掃活動やパトロールなどのボランティア活動を自主的に行って頂いております。

また、道路における花いっぱい運動や河川愛護などに参加される町民も多くみられます。

今後は、自然環境や緑に対する意識啓発、地域コミュニティ形成を目指し、緑の輪を広げ、これらの取り組みの拡大を図っていくことが課題となっています。